

# ○授業での最適なICT活用をめざして！ 5

## 学校経営としての教育環境 —タブレット端末を含めたICT環境整備—

福岡県柳川市立豊原小学校長 新谷 裕 幸

### 1 はじめに

柳川市は福岡県南部にあり、城堀川下り・うなぎせいろ蒸し・北原白秋が有名で、19小学校と6中学校がある。本校は、全校児童164名7学級（特別支援学級1を含む）の学校である。

教育の情報化にあたっては、平成20年度より3年間で校務支援システムを含む校務用端末の整備が行われ、出席簿・指導要録等の公簿と通知表等がシステム化され、校務の情報化が推進された。一方、ICTを活用した学習指導にあたっては、平成25年度より5年間で、これまでのコンピュータ室のデスクトップパソコンの整備を、普通教室での活用促進をねらいタブレット端末等の整備へと移行し、学習指導での活用を推進している。

本校のこれまでの校内研究の歩みは、次のようになっている。

#### ○平成24～26年度

DIS School Innovation Project—産学官連携による普通教室でのICT活用推進実証研究—指定校

#### ○平成25～27年度

柳川市学校教育研究指定校（情報教育に関する研究）

#### ○平成26～28年度

福岡県重点課題（ICT利活用の推進）研究指定・委嘱校

平成27年度の研究主題は、『学力の3要素を身につけた子どもの育成～効果的なICT活用と「かく活動」の位置づけを通して～』である。

また、次の2つの文部科学省事業も受けている。

#### ○平成27年度

情報教育指導力向上支援事業「プログラミング

#### 教育実証事業」

#### ○平成27年度後半～平成29年度

「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業（学校教育におけるICTを活用した実証事業）」

この間、学校経営の中核に教育の情報化を掲げ、ICT環境整備を進めてきた（資料1）。

#### 資料1・学校経営を中核としたICT環境整備

##### 《学校経営の観点から》

・魅力ある学校づくり、ユニバーサルデザイン、P-D-C-A（Plan Do Check Act）（計画—実行—評価—改善）サイクル

##### 《教育環境の一つとして》

- ・ひと  
教員、児童生徒、保護者等
- ・もの  
校舎、校庭、机、黒板等
- ・こと  
カリキュラム、学校文化、伝統、行事、研修等

##### 《ICT環境整備を進める》

- ・ハードウェア  
タブレット端末、デジタル機器（電子黒板・実物投影機等）
- ・ソフトウェア  
デジタル教科書、デジタル教材、授業支援システム
- ・ネットワーク  
インターネット接続、校内LAN（有線・無線）

### 2 タブレット端末の活用環境整備

校内研究会の歩みとともに、タブレット端末等

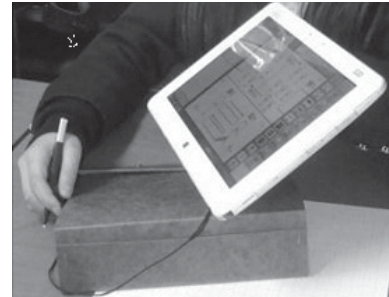


写真1・紙ファイルを再利用し端末台に

の整備が進められ、次の3期にわたっている。

#### ○第1期（平成24年12月）

タブレット端末40／ノートパソコン1／サーバー1／充電保管庫2／無線LANアクセスポイント2／授業支援システム／小学校向け統合ソフトウェア／デジタル教材（検索・ドリル）

#### ○第2期（平成26年9月）

タブレット端末38／ノートパソコン1／サーバー1／充電保管庫2／電子黒板1／複合機1／実物投影機1／無線LANアクセスポイント2／授業支援システム／小学校向け統合ソフトウェア／デジタル教材（検索・ドリル）

#### ○第3期（平成27年10月）

タブレット端末39／電子黒板2／無線LANアクセスポイント4

このように、100台を超えるタブレット端末を整備すれば、活用は促進するかといえばそうではない。タブレット端末以外の環境の整備が重要である。次のような環境は、学校独自に計画的に整備してきた。

学習専用光回線1／アクセスポイント追加5／100V電源（充電用）／ノートパソコン追加7／電子黒板追加3／実物投影機追加8／児童机（新JISワイド500×650mm）約200／タブレットスタンド：廃物利用。A4版紙製フラットファイルを裏返し、二等辺三角形形状にホッチキスで留めたもの。タブレット端末が30度ほどに傾いた状態で使用できる（写真1）。／指導者用デジタル教科書

さらに、研修会の充実やカリキュラムの開発など多くの時間をかけ、教員によるICT活用を基盤としつつも、児童によるICT活用も推進している。

#### 資料2・タブレット端末活用授業実践記録

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	外国語	総合	特別活動	生活単元
平成24年度	6	3	8	2	2				1	(1)				1
平成25年度	3	1	6	1	2				1	1	(1)		1	
平成26年度	4	1	5	1		(1)	1	2	1					1
平成27年度	2		3	2						2		1	2	2
合計	15	5	22	6	4	(1)	1	2	3	3	(1)	(1)	3	4

### 3 タブレット端末の活用状況

タブレット端末の活用状況（教科等）は、平成24年12月の導入から平成27年9月までの活用は、全教科、全領域にわたっている。次に示すように、7学級の授業研究、つまり、授業実践を記録として残している教科、領域は、小学校の教育課程のすべてにわたっている（資料2）。

もちろん、各教室に設置している実物投影機、電子黒板は、ほぼ朝から夕方まで使用しているし、タブレット端末は、必要に応じて新旧を使い分けながら使用している。特に本校では、教員によるICT活用はもちろんのこと、児童によるICT活用に重点を置いている。

そこで、学級の係活動に「ICT係」のような自主的な係活動が設定され、さまざまな機器の起動や接続、タブレット端末の配布・回収や充電などが日常的に行われている。

タブレット端末の活用状況（学習スタイル）は、大きく次の3つに分類できる。



写真2・電子黒板に児童の考えを一齐提示